

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化創成科学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

お茶の水女子大学

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
文教育学部、理学部、 生活科学部、人間文化 創成科学研究科	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある

**1. 文教育学部、理学部、生活科学部、
人間文化創成科学研究科**

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 人間文化創成科学研究科では、女性研究者のポスト確保に取り組んでおり、専任教員の女性比率は平成 28～令和元年度においていずれも 40%を超えており、学系別（総合融合系）の平均値：13.9%を大幅に上回り、国立大学の中で一位となっている。こうした人事方策の成果として、科研費の採択件数に占める女性研究者の採択件数の比率が平成 28～令和元年度の 4 年間で 57～59%となっており、国立大学の中で一位となっている。

〔特色ある点〕

- 国立大学法人として初めて保育所型認定こども園「文京区立お茶の水女子大学こども園」を、東京都文京区と連携して平成 28 年度に設置した。質の高い保育サービス・幼児教育の提供と保育所待機児童の解消に向けた取組を進めるとともに、お茶の水女子大学における保育・幼児教育に関する教育・研究活動の実践と成果を社会に還元している。平成 30 年度には、経済産業省「未来の教室」実証事業において、本園を題材としたプロジェクト「お茶大こども園ラボ：幼児期の教育・保育探求プロジェクト開発」が採択された。
- お茶の水女子大学の特色ある研究分野を融合・発展させるため、「ヒューマンライフイノベーション研究所」と「人間発達教育科学研究所」の 2 つの研究所から構成される「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を平成 28 年度に新設した。生命科学・生活科学による身体的・環境的側面並びに人間発達科学・教育科学による精神的・社会的側面、すなわち「からだ」「こころ」の両面から国内外の研究機関や企業と連携しつつ、研究を推進している。また、子ども期から高齢期までの人の発達段階に即して、人が健康で心豊かに過ごし生活環境を向上させる方策を創出し、その成果を社会へ向け発信することを目指してきた。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、14 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「ほ乳類における脳形成の研究」及び「中東・イスラーム地域の都市研究」は、学術的に卓越している研究業績である。